

○氏名：前田 功

○会員番号：PEN-0029

○専門分野：Electrical

○試験日：2008 年10 月

○受験回数：1 回目

○勉強時間：不明

○試験に用いた参考書・問題集

- ・ Electrical Engineering Reference Manual for the Electrical and Computer PE Exam, 7th Edition (2007)
- ・ FE reference handbook (FE 試験で用いたもの)

○勉強に用いた参考書・問題集

同上(Practice Problems とSample Examination も購入しましたが、こちらまで手が回りませんでした。)

合格体験記

PE 試験の合格体験記といってもFE 試験を合格した上でのPE 試験であるため、FE 試験から順を追っていきたいと思います。

① FE 試験 (2007 年秋)

FE 試験対策は色々な方々が言われている通り、FE Review Manual とFE reference handbook を入手しました。FE Review Manual は幅広い分野にまたがっており、本人の専門分野により得手不得手があるのはやむを得ないので、偏らないようになるべく各章並行して読み進めました。特に計算問題では試験会場で唯一参照できるFE reference handbook が重要なので、何が (どのような数式が) どの辺りに記載されていてどう活用するか、という点を心がけました。ですが、時間には限りがありますので試験日までに読み進めることができたのはFE Review Manual 全体の6～7割程度でしょうか。FE 試験はclosed book examination ですが択一式の形式とのことで、最悪は鉛筆転がして、と腹をくくって試験会場に行きました。

(おわかりとは思いますが実際には鉛筆は持ち込んでいません。念のため。)

PE 試験もそうですがFE 試験も午前4時間、午後4時間の計8時間を1日で行う長丁場の形式です。わかる・わかりそうな問題には手をつけ、わからない問題 (英語が理解できないものも含む) はとばして、と一通り読み進めただけで時間の半分か過ぎていました。そこからやや慌てて、とばした問題にも手を着けると意外と思えることができた問題があったり、わからなかった英文も何度か読むと何となくわかってきた問題があったりし、最終的には全問題に対して何らかの「選択」を行い、試験後はとても疲れたことを覚えています。また試験を受けた感想としては、公式などを覚えることよりも、それらをどう活用できるのかが重要ですから、このような形式 (FE reference handbook 参照可) の試験の方が本質的ではないかと思いました。

② PE 試験申請 (2008 年前半)

FE 試験後、手応え的なものが今一つ感じられなかったためもう一度FE 試験かと思い、また英語から解放

されなかったというも手伝って、PE 試験に向けてもFE 試験に向けても何もしていませんでした。そうしたところが明けた2008年1月に、FE 試験のcertificate が届きました。あわせて2008年4月のPE 受験申請の案内も頂きましたが、試験の難易度を知らうと慌ててAmazon で発注したSample Examination や Reference Manual などの入手に時間がかかったのと、次の点から4月試験は見送ることとし、10月試験を目標におくこととしました。

次の点とは、私にとってとても難関な、申請時に必要な英文の業務経歴書です。日本語でもなかなか書きにくいもので、英文での履歴書草案の作成として（インターネットで検索すると色々出てくる）業者さんをお願いしようかとも考えたほどでした。ですが、業者さんに草案を作成して頂いたとしても、専門的な内容（特に専門用語）の英語記載に関しては自分で何とかするしかない気がしてきて、記載の仕方を色々試しているうちに何とか業務経歴書の空欄が埋まっていきました。（期間としてはとてもかかりました。）

③ PE 試験対策（～2008年秋）

PE 試験はFE 試験と違ってopen book examination です。日本の資格試験を受けた経験はありましたが、資料持ち込み可というは今までに聞いたことがありませんでした。そのため、どのような準備（対策）が良いのか見当が付きませんでした。また実際に参考書などを持ち込むにしても試験会場まで近いわけではなく、一日8時間の長丁場を考慮して、持ち込む参考書はReference Manual 一冊に絞りました。とはいえ、Reference Manual はとても分厚いhard cover の洋書であり、時間的にも私の英語能力的にも、とても全部を読み切ることではできません。そのため、試験中にReference Manual を引いて調べることができる（索引もあるので）、事前準備をすることとしました。FE reference handbook の時と同じ対応ですが、分量は全く違います。また専門分野とはいえ、業務に関連する分野以外については読んでみてもあまりよくわからず、電子辞書を引き引き、どの辺りに何が記載されているのかを見ていだけで試験日当日を迎えてしまいました。

④ PE 試験当日

試験日当日、参考書として結局Reference Manual と、公式集として便利なFE reference handbookを持ち込んだわけですが、他の方々は何を持ち込んでいるのかと思い、周りを見渡してびっくりしてしまいました。紙の英和辞書であれば参考書として持ち込めたのですね……。電子辞書ばかりを使っていて気がつかなかった私がいけないのですが、ちょっと動揺してしまいました。そうこうしているうちに試験開始時間を迎えました。FE 試験の経験から、PE 試験を受けるにあたって一つだけ考えていたことがありました。それは「決してあきらめない」ことです。FE 試験もPE 試験も時間が長く、問題数も多い試験です。難易度の高い問題ばかりが出題されるわけではないと考えています。そのため、今までの業務に関連する分野はともかく、そうでない分野でも難易度の高くない問題は確実に解答していくよう、試験時間最後まであきらめずにReference Manual を引いて進めていきました。

⑤ PE 試験結果

年が明けてからだったと思いますが、FE 試験の時と同様にエキスパックが届き、喜び勇んでエキスパックをカッターナイフで切り開いたところ、PE 試験のcertificate が収められていた台紙ごと切り開いてしまいました。今ではcertificate は額に収めているので台紙は使ってはいませんが、試験合格で嬉しい反面、少し残念な出

来事でした。

以上が私の体験記であり、皆様のお役に立つものなのか怪しいものではありますが、なにがしかのご参考になれば幸いです。